

「第6回 アジア・オセアニア・キャンプ大会」 秋篠宮妃殿下 お言葉  
(和文仮訳)

平成28年10月29日(土)

本日、「第6回 アジア・オセアニア・キャンプ大会」の開会式が開催され、皆さまにお会いできましたことを、たいへん嬉しく思います。こどもの頃より、キャンプに参加したり、お手伝いをしたりしてきた思い出を大事にしている私は、キャンプのご経験が豊富な皆様とともにこの大会に参加することを、楽しみにしておりました。

海外からご参加の皆さまを歓迎いたします。美しい自然と文化がある日本においてのご滞在が、皆さまにとりまして思い出深いものとなりますよう、願っております。

皆さまが取り組まれているオーガナイズド・キャンプは、参加者が普段の生活とは異なる経験をする中で、人との関係を築き、精神的回復力を身につけ、自己肯定感を高める機会を提供すると思います。自然や多様な文化と親しむ活動は、参加者が自らの能力を伸ばす助けになると感じます。このようなキャンプは、よい訓練と経験を経て必要なスキルを身につけたスタッフをはじめとする多くの熱心な人々の協力によって実現してきました。クオリティの高いキャンプを行うために努力してこられた皆さまに、心から敬意を表します。

例えば、「スペシャル・ニーズ・キャンプ」が催されていること、ユニバーサル・デザインのキャンプ場がいくつかあることは、大変勇気づけられます。障害をもつ子どもたちが、キャンプで自然とかかわり、能力を伸ばし、達成感や成功体験を得たことを知り、嬉しく思います。また、難病の子どもたちやその家族が、特別に配慮されたキャンプでかけがえのない時間をすごしていると伺い、ありがたく思っております。

「グリーフ・キャンプ」が、心の傷みを持ち、困難な状況にある子どもたちを支えてきたことに、深い印象を受けております。愛する人を失った悲しみの中にいる子どもたちにとって、自らの気持ちを伝え合ってひとりぼっちではないと知ることのできるグリーフ・キャンプは、価値ある贈り物だと思います。この機会に、2011年の東日本大震災の後、キャンプを開催するために支援してくださった方々に、感謝の気持ちをお伝えししたく存じます。

皆さまお一人お一人が、それぞれのキャンプの歴史を築いてこられたことだと思います。喜びに満ちたキャンプもあれば、難しい課題を伴うキャンプもあったかもしれません、どのキャンプも、よりよいキャンプをオーガナイズするための皆様の能力に貢献したに違いありません。この大会が皆様に、経験や考えを分かち合い、キャンプの一層の可能性を拓くために話し合う、実り多い時間を提供することを希望しております。また、この会議がオーガナイズド・キャンプの重要な役割についての認識を高めるよい機会となることを希望しております。

結びに、皆さまのご健康とご活躍を祈り、オーガナイズド・キャンプが人々に貴重な経験をもたらすよう願い、式典に寄せることばといたします。